



Title	つぼの問題における最適停止
Author(s)	Abdullah-Al-Kafi, Majumdar
Citation	大阪大学, 1985, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/34705
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 ＜a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed >大阪大学の博士論文について をご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

【1】

氏名・（本籍）	アブドゥラ アル カファイ モジ ユム ダル Abdullah-Al-Kafi MAJUMDAR
学位の種類	学 術 博 士
学位記番号	第 6 8 8 1 号
学位授与の日付	昭 和 60 年 3 月 25 日
学位授与の要件	基礎工学研究科 数理系専攻 学位規則第 5 条第 1 項該当
学位論文題目	つぼの問題における最適停止
論文審査委員	(主査) 教 授 坂 口 実 (副査) 教 授 丘 本 正 教 授 竹之内 脩

論 文 内 容 の 要 旨

当学位論文では、ツボからの球の抽出の打ち切り時点を決める最適停止問題について論ずる。これらの問題はすべて離散的最適停止問題であって、各問題は動的計画問題の手法を用いて解かれる。

第 1 章では、ツボから 1 個の球を引いた時正の得点 + 1 を得る『正球』と、負の得点 - 1 を得る『負球』の 2 種類の球が入っているツボからの非復元抽出に対する 3 つの最適停止問題を取扱う。

第 2 章では、正球と『帰無球』が入っているツボからの非復元抽出に対する最適停止問題を扱う。この場合、決定者は帰無球を引く度に累積得点が 0 になり抽出が残りの球に対して再び始まる。ここでは、確定的ツボと確率的のツボの両方の場合について解かれている。

第 3 章では、第 1 章と第 2 章で考えられた問題を組合せた問題について論ずる。すなわち、正、負、帰無の 3 種の球の入ったツボからの非復元、復元両抽出に対する最適停止問題について考察する。

第 4 章では、ツボの中に正球と負球とさらに λ -球 ($\lambda \in [0, 1]$) が入っている場合を扱う。

次に、各ツボに正球と負球の入っている 2 個のツボから非復元抽出を行なう時の最適停止について、第 5 章では論ずる。

最後に、第 6 章では、1 から N の番号が無作為に付けられた同じ大きさの球（個数はあらかじめ決められている。）の入ったツボから非復元抽出を行なう n 段 2 人逐次ゲームを考察する。

第 1 ～ 5 章の問題の目的はすべて、停止時点での決定者の期待利得を最大にする最適停止規則を求めることである。一方、第 6 章では、各プレイヤーの目的は、停止時点での自分の勝つ確率を最大にし、相手の勝つ確率を最小にする最適政策を求めることである。

論文の審査結果の要旨

つぼの問題は古典的確率論の1つの発生地であったが、情報と決定過程の見地からも多くの興味ある問題を埋蔵している。本論文は Boyce のつぼの問題 (W.M.Boyce 1970, 73) の提示する最適停止政策の特性を、より拡張した種々のモデルにおいて再検証を試みる一連の研究をまとめたものである。

m個の“マイナス球”とp個の“プラス球”(以下、それぞれを $\ominus$, $\oplus$ と略記する)をいれたつぼからランダムに逐次1球ずつ、もとに戻すことなしに取出す。 $\ominus$, $\oplus$ の1個をそれぞれ-1, +1点と勘定して加算してゆく、いつ停止してもよい。停止時における得点を最大にせよ、というのが Boyce のつぼの問題である。第1~4章では $\ominus$ や $\oplus$ の他に“強制停止球”(これが出ると得点はそのまま強制停止が起こる)や、“キャンセル球”(これが出ると得点は0にもどって抽出は継続される)や“高級プラス球”を導入した拡張を扱かい、Boyceの結果が拡張された形で成立することを示し(命題1.1.1, 定理2.1.1, 命題3.1.1, および定理4.2.1)さらに最適解を求めている。例えばカードのspadeの13枚をとり、下の5枚, 2から6まで,を $\ominus$, 上の8枚, 7からaceまでを $\oplus$, jokerをいれて“強制停止球”と思えば, 1.2948点取れる。また正月に遊ぶ“坊主めぐり”では87枚が貴紳と姫, 13枚が坊主, これらを $\oplus$ と“キャンセル球”とに見立てると, 16.4062点までとれる。

第5, 6章ではそれぞれ1つのtwo-urn problem, bilateral sequential game を定式化してそれぞれに解を与えている。(命題5.2.1 および定理6.1.2)

著者は高速計算機を駆使してこれらの諸問題の解を求めるための数値表を幾つも作製している。この研究は確率・統計論などの理学的側面のみならず, 経営科学・社会科学への応用面に対しても新しい知見と視野を提供するものであり, 学術博士の学位論文として価値あるものと認める。